琉球大学学術リポジトリ

# 小児難治増殖硝子体網膜症への術後短期パーフルオロンタンポナーデ治療



| メタデータ | 言語: |
| --- | --- |
| | 出版者: 琉球大学 |
| | 公開日: 2016-04-28 |
| | キーワード (Ja): |
| | キーワード (En): |
| | 作成者: 今泉, 綾子, Imaizumi, Ayako |
| | メールアドレス: |
| | 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/33685 |

平成 27 年 6 月 29 日

（別紙様式第７号）

論　文　審　査　結　果　の　要　旨

| 報告番号 | 課程博<br>＊　第　号<br>論文博 | 氏名 | 今泉 綾子 |
|---|---|---|---|
| 論文審査委員 | 審査日 | 平成 27 年 6 月 24 日 | |
| | 主査教授 | 高山千利 | 印 |
| | 副査教授 | 石内勝吾 | 印 |
| | 副査教授 | 益崎裕章 | 印 |

（論文題目）

Efficacy of Short-term Postoperative Perfluoro-n-octane Tamponade for Pediatric Complex Retinal Detachment

小児難治増殖硝子体網膜症への術後短期パーフルオロンタンポナーデ治療

（論文審査結果の要旨）

1、　研究の背景と目的

増殖硝子体網膜症治療における術後タンポナーデ物質には長期滞留ガスやシリコーンオイルが用いられるが、いずれも比重が水より軽く、網膜下方に裂孔のある増殖性変化が強い症例や術後の伏臥位姿勢維持が困難な小児増殖性硝子体網膜症例では十分なタンポナーデ効果が得にくいという問題がある。このような症例に対し硝子体切除術後のタンポナーデ物質として比重が 1.75 と大きい perfluoro-n-octane を使用することは理論的には効果があると考えられる。硝子体切除術後の短期タンポナーデ物質として perfluoro-n-octane を使用した重篤な小児増殖硝子体網膜症の治療の有効性を検討し、報告した。

2、　研究内容

症例は、3 ヶ月から 11 歳（中央値 7.5 ヶ月）の増殖性硝子体網膜症 9 例 10 眼、男児 6 例、女児 3 例であり、未熟児網膜症は 6 例 7 眼であった。

perfluoro-n-octane は網膜下方の増殖性変化が強く、長期滞留ガスやシリコーンオイルでは対応困難と判断した 2 眼では初回手術で、8 眼は通常のタンポナーデ物質で

復位が得られなかった症例の再手術時に使用し、1-4 週間後（中間値 2 週間）にこれを抜去した。術後経過観察期間は 5～43 ヶ月（中間値 19.5 ヶ月）で、最終経過観察時 8 眼（80%）で網膜復位が得られた。perfluoro-n-octane の使用による合併症は特に認めなかった。perfluoro-n-octan は比重が大きいためタンポナーデ力が強く、特に下方裂孔の症例に有用である。また留置期間中の腹臥位が不要で腹臥位困難な症例に有効である。さらに 1）物質そのものが不純物を含んでいないので増殖変化が起こりにくいこと、2）比重の大きい液体であるため網膜表面から増殖性変化を惹起するメディエーター(網膜色素上皮細胞・化学因子・血清成分など)を透過させ易いので増殖性変化が起こりにくいこと、3）粘度が低いためシリコーンオイルより抜去が容易であることなどの利点がある。

網膜への重力による機械的なダメージに注意が必要であるが、シリコーンオイルやガスでは網膜復位が困難であると思われる小児網膜剥離の重症例には短期タンポナーデ物質として perfluoro-n-octan は有効であると考えた。

3、　研究結果の意義と学術水準

眼内タンポナーデ物質には従来シリコーンオイルやガスのいずれかの選択肢しかなく、術後腹臥位の困難な小児増殖硝子体網膜症に対しての治療成績は不良であった。perfluoro-n-octan を術後タンポナーデ物質として使用することで良好な結果を示したこの報告は極めて有意義な治療法として今後の難治増殖硝子体網膜症症例の治療に多大なる貢献ができると考えた。

以上により本論文は学位授与に十分に値するものであると判断した。

備　考　1　用紙の規格は、Ａ４とし縦にして左横書きとすること。
　　2　要旨は800字～1200字以内にまとめること。
　　3　＊印は記入しないこと。